



平成24年5月23日（水）  
宮城県水産技術総合センター  
企画情報部

### フランス水産養殖振興会から調査・研究機材が贈呈されました

今から40年前、マガキの種苗1万トンが宮城県からフランスに輸出され、フランスのカキ養殖の復興に貢献しました。こうした経緯もあり、東日本大震災に伴う津波で壊滅的な被害を受けた本県のカキ養殖の復興のため、昨年に引き続き、フランス水産養殖振興協会様より当センターに実体顕微鏡4台及びプランクトンネット3点が寄贈されました。

5月22日（火）に日仏海洋学会津波被災復興実行委員会の小池康之さんが当センターを訪れ、機材の贈呈式が行われました。併せてカトリーヌ・マリオジュウルス会長から「機材が漁業者と研究者の皆様になくてはならないものとお聞きしております。漁業者と研究者の皆様が力を合わせ、持ち前の粘り強さを持って、養殖業と漁業の復興のためにより一層ご活躍され、成功されることを心より祈念致します」とのメッセージも添えられておりました。

これらの機材は、マガキの種苗確保や成長の確認のために必要不可欠なものであり、当センターだけでなく、漁業者の方々にも現場で活用していただくことしております。



機材の贈呈式（右 日仏海洋学会 小池氏）



贈呈された実体顕微鏡とプランクトンネット